

児童の実態および定期考査を含む調査結果等に基づく内容別・観点別の分析表

教科名	算 数
-----	-----

	児童の学習状況についての実態	国の学力調査と学校の結果分析	内容別・観点別の分析
第 1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 までの数の加法・減法については、30%程度の児童がブロックなどの半具体物を用いて計算している。20 までの数における数の分解と合成、順序など初歩的な概念の理解は個人差がでている。 ・ 技能では全員が 90% 程度の理解であるが、文章題を読み取ったり立式をしたりする力が十分ではない児童が 30% いる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 加法の技能は十分であるが、知識・理解、数学的な考え方には個人差がある。文章題では、読み取る力の不足も原因であると考えられる。繰り返し学習経験をさせ、多くの問題にふれ、身につけさせていく。
第 2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ たし算とひき算の筆算では、繰り上がりや繰り下がりが無いのにやっちゃったり、たし算とひき算を混同してしまったりするミスが目立った。時こくと時間では、時刻の読み取りや一定時間前や後の時刻を求めることが苦手である。ものさしを使って長さを測定したり、直線をひいたりする場面では個人差がみられる。目盛りの読み取りにも個別指導を要する児童が 2 割いる。 ・ 知識・理解については、9 割方理解している。技能は 8 割台であり少し落ち込みが目立つ。また、単元による個人内差がみられる。数学的な考え方では単元による個人内差と共に、個人差もみられる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆算では、繰り上がり下がりの有無混合タイプの練習問題を重ねていく必要がある。長さや時こくと時間においては、家庭での協力を含め、日常的に継続し、定着を図る。
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の問題の理解が不十分な児童が 10% 程度みられる。計算力は反復練習により、全体的によく身に付いている。 ・ 数量の知識と表現理解について 90% 近くの児童が理解している。図形についても 80% 程度正解しているので理解しているといえる。数学的な考え方については、個人差が大きい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的な考え方については、文章題の読み取りが正確にできない児童が多い。そこで、場面把握の手立てとして、テープ図や線分図を取り入れていく。
第 4 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現処理については、おおむね理解している。一兆以上の数の構成、平行や垂直の概念の理解が十分でない児童が見られる。図形の作図の技 		<ul style="list-style-type: none"> ・ かけ算わり算については、引き続き確実に計算できるよう取り組ませていく。大き

	能、文章問題の数学的な考え方は個人差が大きい。		な数や平行垂直の概念の理解、作図技能については繰り返し経験を積ませ、適宜個別指導を行っていく。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方や決まりなど、知識・理解の面では、理解している児童が多く、各単元で90%以上の正解率を出している。それに伴い、計算の力なども身に付いている。 ・文章問題では、立式の根拠となる部分を見つけだすことが困難で、式が立てられない児童が7%程度いる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習、特に小数の乗法・除法に繰り返し取り組み、技能面での学力定着を図る。 ・文章問題では、立式の根拠となる数直線や線分図などの指導に力を入れ、力を身につけさせる。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼバランスのとれた正答率を上げ、平均を上回ることができている。しかし、個々の学力差は大きく、学年相応の力が身につけていない児童が10%程度見られる。 ・難易度に合わせた問題を準備しておき、個々の力に合わせた学習を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な考え方や数量・図形などについての知識・理解については平均を大きく上回る。表現・処理については平均を上回るが偏差が小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区の平均を上回り一定の成果がみられる。計算力などの基礎基本の定着があるので、より正確に問題が解けけるように落ちついて取り組ませる。また論理的な思考ができるよう一人一人の学力の向上を目指す。